

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4490100270		
法人名	医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花関2		
所在地	大分市佐賀関335番地		
自己評価作成日	平成26年1月28日	評価結果市町村受理日	平成26年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成26年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に、その人らしく、自然と共に、地域と共に掲げています。出来る限りその方の家庭生活と同じように地域とも関わりを持って生活して頂けるように支援を行っています。グループホーム菜の花関2は、周囲を山と川に囲まれた情緒豊かな所にあります。四季折々の季節感を感じる事が出来、地域の行事にも積極的に参加しています。又昔見た事のある蛸鑑賞、花火大会、季節の果物や紅葉などの散策もできます。職員さんをご入居者様が一つの家族となり、安心してゆったりとした生活を送られています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・運営推進会議や日々の暮らしの関わりの中から、地域の方が「菜の花応援隊」として防災に協力してくれる等、地域の一員としての繋がりが深まっている。
 ・「回想法」「共想法」を取り入れ、入居者同士の交流や本人の思いを汲みとり、馴染みの関係の継続支援や思いや意向の反映に活かしている。
 ・浴室リフトを導入し、重度化してもゆっくり湯船に浸かることのできる支援をしている。リフトリーダー研修を受講した職員が全職員に伝達研修を行い、安心安全な入浴の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然と共に地域と共に重度化されても尊厳や権利を損なわず、その方らしいあり方を目指した理念です。ホール、等に掲示し送り時に理念の確認を行い理念の基に何が有るのかを考えながら支援を行っている	理念をいつでも確認できるよう、玄関やホール等に掲示している。 新人研修で、理念について具体的に伝えており、職員は理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の犬に餌やりに出かけお花を頂いたり、地域からも定期的に行事案内を受けている。サロンの運動会や地域の交通安全運動、中学校の廃品回、バザーは特に楽しみにされている参加行事の一つです。	利用者と職員が一緒に地域の行事やボランティアに参加することで、地域の人と顔なじみの関係になり、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われている認知症研修に参加し、解りやすい事例発表を行ったり、地区の中学生施設実習等でも理解しやすい言葉を使い支援方法等を説明している。職員もレベルアップの為研修を進んで受講している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所のサービス内容の報告、リスク発生などの報告レクリエーションなどの取り組み状況を報告し、外部評価の結果や自己評価報告も行い、ご意見や質問等を受け、ご指示やご理解を頂いている。	運営推進会議で外部評価結果を報告し、意見をもらっている。防災やボランティア活動、バザーの案内など地域の情報をもらいながら、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市職員さんの参加がある。市主催研修(地域密着型施設)へ参加、電話等による報告、相談を通して助言を頂き、日常的に交流している	市担当者は、運営推進会議に参加している。 市主催の会議や研修に参加し、電話で相談するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	担当者が研修会を定期的に関催し日常的に学んでいる。家庭と同じように日中は玄関は施錠せず、夜間は施錠するようにしている。又ベットの柵も手すりとして利用する以外は取り外している	2ヶ月に1回開催する定例会の中で、虐待を含め身体拘束についての研修を繰り返し行っている。 職員は身体拘束しないケアを正しく理解し、抑圧感のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止担当者の主催する研修会を定期的に関催し日常的に学び確認しながら取り組んでいる。又研修参加者による報告も受け確認を行うようにし、言葉による制御や行動制御しない介護を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護マニュアルや研修報告により日常的に学び確認しながら取り組んでいる。実際に利用者さんご家族に後見人になられている方もいらっしゃる。都度連絡を取り活用し支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定時に入居のご案内や重要事項の説明を行い、事業所での取り組みや対応できるサービス内容に時間をかけ、ゆっくり丁寧にわかりやすい言葉で説明を行い、都度応答し理解と納得して頂けるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも話せる関係づくりを目指している。利用者様ごとに担当職員を設け(家族あての手紙等)、窓口を一元化する事で訴えや相談をしやすい環境にしている。又他に苦情、相談担当者を設け時間の限定はあるが対応できるようにしている	居室に担当スタッフの名前を掲示している。職員は家族が話しやすい雰囲気づくりを心がけ、いつでも意見がもらえるよう努め、出された意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会を行い疑問や相談などを話し合っている。又連絡ノートでも反映し、勤務年数や一部職員の発言に偏らない風通しの良い関係づくりをしている	職員の気付きは「連絡ノート」で共有し、話し合いながら、運営に反映させている。職員同士のチームワークを大切に、意見を出しやすい関係に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭と仕事が両立できるように、勤務希望日や公休希望日を事前に記入する事が出来、働きやすい職場、チームケアも大切にしている。育児休業後復職している職員や短縮措置を利用している職員もいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修に職員が参加しやすい環境を作り学んだ事は、全ての職員が実践指導を出来る環境を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部より研修生を受け入れ、又外部へ研修に行く交換実習も行い、サービスの向上に向けて取り組みを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、を中心に時間をかけ傾聴を繰り返し記録に残し、職員がご本人を理解できる体制、関係作りに努めている。入居前にセンター方式用紙を利用し御家族さまにも、ご記入の依頼をしている。ご入居後も不安等が無いかわりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前より、何度も面接と傾聴を場所を変えて行いグループホームでのサービス内容のご説明を行い、出来る限りのご要望に沿えるように解りやすい言葉で時間をかけご説明し理解して頂けるようにしている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談内容によっては可能な限り柔軟な対応を行い、必要と思われる事だけでなく、その時々が必要とされる事にも柔軟に対応し、他のサービスも提案するようにしている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ありがとうございます」と感謝を伝え合い相身互いとお互いを労いながら、日常生活を共に支え合っている。そのような場面が多く持つ工夫も行っている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に何度かの来訪依頼やご家庭まで職員が送迎を行い在宅での生活を外出を兼ねて楽しんで頂きながら、ご家族に日々の様子をご報告、又ご家庭での様子をお互いに提供し共感できる関係を作っている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室を継続して利用できるように、計画を立てたり、ご家族にもご協力頂いている、施設でも在宅生活と同じようにヤクルト販売利用、馴染みの新聞を読む事が出来るように支援を行い、関係が途切れないようにしている	買い物やかつての職場訪問、知人の訪問支援など、利用者一人ひとりの馴染みの関係を把握しながら、関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い利用者さん同士でお話をする機会を作ったり、新聞の受け渡し食事やおやつのお誘いなどで、関わり支え合える関係づくり、孤立しそうな方には個別支援、内線電話の取次ぎをお願いし、関わりが保てるように支援をしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の利用者さんが多く退所後もご家族の方とお顔を合わせる機会が多い、挨拶や定期的なお見舞いなどで経過を伺い、場合によっては再入居申し込み、在宅生活、ご家族間等の相談にも応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にも、センター方式の用紙を利用し生活歴から意向を汲み取るように努め、困難な場合は会話や表情、ご家族に伺いながら疑似的に意向を組込把握に努めています	認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を取り入れている。 日々の中で、本人や家族の意向を聞きながら、定期的に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴シートを作成し都度見直しや傾聴などで変化があった場合はあとがきとして記入を行い、日々把握できるように記録ノートにも記載し見逃さないようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活パターンを把握、出来る事を探しケアプランにも反映し日々のモニタリング、気づきノートや職員連絡ノート等により情報交換、現状のADLの確認と把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の個性を大切に、出来る事が一つでも増えていけるように、昔得意だった事や好きな事、楽しい事を重視しケアカンファレンス以外でも気づきノートを作り意見の集約とケアプランに反映を図っている	介護計画の内容を居室に掲示し、プランに沿ったケアができるよう毎日確認している。 月1回モニタリングを行い、3ヶ月ごとに現状に即した介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の書き方を工夫し、主観を入れず、ご本人の言葉を用いて記入し職員間の情報を一元化し、共有できるようにすることで、見直しや気づき、評価を実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や思い、ご家族の意向等に配慮しつつ、急な外出、外食、外泊、受診等の付き添いなど基本的に希望時には、すぐに対応できる柔軟な体制をとり対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報交換、避難訓練、防災週間点検等で来訪して頂いた消防署との関わり、利用者が行きつけていたスーパー、移動販売による買い物支援、行きつけ店でのカット、継続した新聞、ヤクルト販売の利用等で支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医に情報提供を行い、定期往診もある。通院が必要な時には必要に応じて職員同行又はご家族が同行し適切な医療が、適切な時に受けられ、複数の医療機関と関係を密に結んでいる	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。医療との情報提供シートを作成し、連携を図っている。隣接する同法人事業所の看護職員の協力を得ながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する事業所に(デイサービス)看護職員やリハビリを行う職員がいるのでつど、健康管理や医療面での相談、助言の対応が出来る体制をとっている。提携医療機関との連携も24時間とれる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必ず職員ご家族が同行し本人の情報を提供している。又必要に応じてご家族、関係者と情報交換を行い頻繁なお見舞いや早期退院できるようなアプローチ、退院後の通院支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針を用いて十分にご説明し、話し合いを行い確認書を交わしている。主治医、職員にも御家族の今の思いや、経過中の気持ちの変化を伝え対応している。職員はターミナルケアの研修にも参加している	入居時に事業所の指針を説明し、状況の変化に応じて、本人、家族と話し合いを繰り返している。 職員研修を行い、情報を共有しながらチームで支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備点検し、AEDを利用した全体研修や個人研修の参加、実際に対応した場合の報告を職員が確認し把握している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や津波、地震などのあらゆる場面を想定し地域の方に避難後の見守りの仕方を職員が実践し依頼している。又散歩時に避難道路の確認、施設内にも入居者の方と一緒に考え方た避難時方向指示案内イラストを掲示しつど確認している	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を、地域の協力のもと実施している。災害時の避難場所である神社を散歩コースに取り入れている。 地域の防災講話に職員が参加する等、地域と共働した災害対策に取り組んでいる。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に尊厳とプライバシーを重視した配慮を行い、研修報告などで常に新しい情報を取り入れている	職員同士でプライバシーを損ねない言葉かけや対応を互いに注意しながら、本人の思いやプライドを大切にケアの実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を重視し、認知症が重度になっても、その方に合った表現方法を模索し「はい、いいえ」等の答えやすい会話、ホワイトボード利用、表情で疑似的に理解する事や過去のデータ等により確認し対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流れはあるが、基本的にお一人ごとのその日、その日のペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を御家族や職員と利用する事が出来る。現在3か所の美容院も来訪されている。顔そりだけやGH内でも不定期ではあるが、マニキュア、化粧、美顔マッサージも行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け、米とぎ、食器洗い、拭きなどをその方々の能力に応じて楽しく出来るように役割分担でお願いしている。行事食は入居者の方の希望を取り入れ、同じ物を職員が同じテーブルを囲み食べる事で家庭的な雰囲気となっています	併設施設の厨房より運ばれる食事を、利用者と職員と一緒に盛りつけや配膳、片付けをしている。 利用者と職員が同じ食卓を囲み、会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の調理員が調理を献立の作成を行っている。食事摂取量は個別に記録している。おやつや入浴後には、必ず水分補給を行い、又水分制限のある方には、バランスよく配分し水分補給をして頂くようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアの言葉かけと支援を行い記録として残している。希望や必要に応じて歯科医師に連絡し対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表によりトイレ誘導を行い排泄パターンを把握し表情時間を見計らいトイレ誘導も行っています。夜間はポータブル利用の方も日中はトイレ利用の支援をしています。言葉かけ時、誘導時には、回りにも気をつけています	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ、誘導しながら、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。耳の聴こえにくい人にはカードを見せてトイレに誘う等、プライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は心身状態の悪化をきたしやすい為、各々の身体状態に合わせて乳製品を取り入れ提供している。散歩や家事活動などで身体を動かす機会を適度に設け自然排便が出来る様取り組んでいるが、場合により薬の調整もおこなっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、好きな時間に入浴できるようにしている。一人一人のご希望や心身の状態に応じて柔軟な対応を行っている。浴槽の足上げ困難な方もリフト利用による入浴で楽しんで頂いています。	毎日、本人の希望の時間に入浴できる。浴室リフトを設置し、重度化しても、湯船にゆったりと浸かり入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室外で活動して頂くように興味のある事や生活リハビリを取り入れている。夜間不眠の方には、温かい飲み物を提供したり、お話を伺い不安を取り除く等の支援も行っているが、継続する場合には、主治医に相談を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人のファイルに処方薬の説明書を保存している。又個別指示書は記録し全職員が送り等で把握に努めている。専門医と主治医とお持ちの方には、双方に情報提供を行い共有して頂き早期発見、報告に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や残存能力を生かした活動をして頂いている。お礼の言葉かけを必ず行い、自信と意欲が保てるように心がけている。行きたいと希望された場合には、出来る限りすぐに支援出来る体制を取っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して、外出レクリエーションを計画しています。個別支援でカラオケや、買い物、外食、ご親戚に一時立ち寄り等の支援を行い、利用者さんにとって良い気分転換をして頂くように支援しています。	天気の良い日には、近所を散歩したり、外でお茶を飲む等の外気浴を行っている。買い物や外食、季節の花見など、利用者が行きたいときにすぐに行けるよう個別の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で少額を小遣いとして管理されている方や事業所でお預かりしている方もいる。移動販売や地域の折り込み広告で買物希望される方には、希望品と同じ商品が購入できるように外出支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	長期間来訪がないご家族の方には、状況に応じてお伺いのTel、FAXをしている。毎月ご家族に送付している書類の中に、ご本人のお手紙や思いを代筆、写真なども同封している。又中の良い知人にTelをかけ、お話しできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんが集うホールスペースはテレビを中心に配置している。利用者さんの作品を掲示し季節感を取り入れている。又仲の良い人、相性の良い人には配慮しテーブルの置き方を工夫して落ち着いて過ごせるようにしています。	静かで明るいリビングにテーブル席や数箇所ソファを配置し、思い思いの場所でくつろぐことができる。観葉植物や季節感のある飾りや写真を廊下に掲示し楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、椅子を各場所に配置し、気の合う人達だけの空間、少人数や時には一人で、気を使わず過ごして頂けるような配慮をし、色々な状況に対応できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年利用していた馴染みの物、愛着のある物を持ち込んで頂き写真やポスターをはり、孤独感が無いように工夫している。又ご家族主治医とも相談の上、冷蔵庫を持ち込みされている方には、こっそりつまみ食い出来る支援をしています	使い慣れたタンスや椅子、思い出の写真を活かしながら、本人の日常動作に配慮した家具の配置など、安全でその人らしく過ごせるような工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には、残存機能を生かせる手すりや可動式の入浴ベンチを更衣室に設置しており、その方の状態に合わせて広く利用できるように、安全確保している、全介助の方もリフトを利用しご本人の安全と安心できる環境づくりを行っている		